

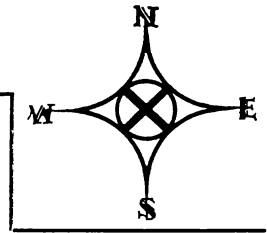


Title	予防接種と地域社会：東豊中団地の動き
Author(s)	松岡, 利明
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 15, p. 27-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84587
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



予防接種と地域社会

—東豊中団地の動き—

近年のめざましい医学の進歩の中で地域社会における保健衛生のあり方、特に流感、コレラ対策などマスコミの間でいろいろ取り上げられているが、新しい地域社会である団地も居住者自らこの問題に取り組んでいかなければならない。

東豊中団地では、居住者の自治組織である自治会が中心となり、居住者の理解と市衛生当局のご協力により予防衛生に力を注いでいる。

予防接種については団地の特色である乳幼児を対象とした接種が多いため、予防接種の目的、効果、副作用および流行時の注意など詳細に広報活動を行なうことが必要で、広報活動により接種率が異なる結果を得ている。

広報活動については、ビラ、自治会新聞、団地の拡声装置などを利用し広く一般に呼びかけると共に接種の便を考えて、団地内集会所を利用している。

予防接種の接種率の低下が問題になっている現在団地では比較的良好な接種率を上げているが、これは居住者の理解と広報活動によると考えられる。他の地域でも広報活動を通じて明かるい市民生活が行なえるようになるものと確信している。

1 団地の保健衛生の小さな動きであるが、他の地域の方々のご参考になれば喜びである。

(東豊中団地自治会 松岡利明)

— 東・西・南・北 —